

過去5年間の事故報告書からみえてきたこと
～更なるサービス向上を目指して、取り組んだ平成28年～

在宅総合センターメディアライフ 森敬司

【はじめに】

メディアライフでは過去5年間（平成23年～27年）で659件のインシデント・アクシデント報告があった。この報告書を集計、分析し、どうすれば事後件数が減少するかを検討した。そこで7つの取り組みを1年間行い、ある程度の成果があげられたので報告します。

【7つの取り組み】

- 1: インシデント・アクシデントの分類基準を変更
- 2: 事故ゼロ月間を実施
- 3: 事故ゼロ月間を啓発するビラを作成し掲示
- 4: 報告書をカテゴリー別に色分けし、内容を5W1Hで適切に記入できるように変更
- 5: 事故報告の内容一覧を随時更新し掲示
- 6: 事故が報告された翌日の朝礼で内容伝達
- 7: 高リスク者リストアップし共有

【集計結果】

過去5年間の報告件数トップ3は、第1位が転倒・転落事故の186件、第2位がケガの123件、第3位が内服関連事故の96件でした。

*イン：インシデント アク：アクシデント

	平成27年			平成28年		
	イン	アク	計	イン	アク	計
けが	0	41	41	11	18	29
転倒	16	23	39	35	6	41
内服	10	26	36	25	0	25
車両	9	8	17	6	2	8
物品	2	19	21	3	9	12
連携	12	44	56	33	8	41
			210			156

平成27年と比較すると54件事故が減少した。

【ケガの事故】

過去5年間、表皮剥離の報告が全体の57%を占め、69件であった。発生時期としては、5月から9月に集中して発生していた。薄着になるという環境の問題が

大きな要因であることから、3月・6月・8月に強化月間を設け注意喚起した。さらに、高リスク者をリストアップしスタッフで共有した。

結果、平成27年の20件から12件に減少した。

【転倒・転落事故】

過去5年転倒・転落事故は、毎年30件以上報告された。

転倒は、病室、談話室、送迎時の順で多く発生していた。転落は、圧倒的に病室で多く発生していた。発生時間は、通所では特徴的なところはなかった。病棟においては、人員が減少する時間帯に多く発生していた。通所と入所を比較すると、通所での事故は、ある程度活動性の高い利用者が、スタッフの監視下、おひとりで動かれ起きることが多かった。入所では、移乗や移動介助にスタッフの介助下で起こる事故が多く発生していることが特徴的であった。

そこで、1月・7月・11月に強化月間を設け、ビラにはサービスによって注意する点が異なることを注意喚起した。さらに、高リスク者をリストアップしスタッフで共有した。

結果転倒まで至ってしまったケースが平成27年の23件から16件に減少した。

【内服関連事故】

内服忘れ、誤薬、経管漏れの順に多く報告されていた。4月・10月に強化月間を設け、ビラには「絶対に内服忘れをしない」「絶対に誤薬をしない」と就業前やミーティング時に声に出して啓発し合うように注意喚起した。

結果平成27年の19件から11件に減少した。

【まとめ】

1年間7つの取り組みを実施し、従事する方の意識を高める工夫が一番大切であることを改めて感じた。インシデント報告の重要性、軽微な被害に済んだ事故を一つ一つ丁寧に分析し対策を講じることが、現場におけるリスクマネジメントの主要で現実的な道筋と考えた。今後も日ごろから事故防止啓発活動と報告書の質の向上、事故の迅速な報告と対応を心がけて、更なるサービス向上を目指します。